アメリカの保守本流

広瀬隆　2003　集英社新書

210781135 木崎天翔

目次

- 序　アメリカの暴走
- 第一章　保守本流とネオコン
- 第二章　アメリカの鉄道資本とは何か
- 第三章　保守派のマーチャント・バンカー
- 第四章　シンクタンクがばらまく軍事思想

序　アメリカの暴走（本書の目的）

1　2003年の米イラク侵攻への経緯解明
2　「石油のためのイラク侵攻」という誤解解消
3　建国以来の米権力構造・人脈の解明

第一章　保守本流とネオコン

1　黒幕ビル・クリストルとネオコン七人組

a）国務長官**ジェームズ・ベーカー**のNY Timesへの寄稿

ア）ブッシュ政権の意見書

イ）イラク攻撃必要論への指摘

ウ）根拠なきイラク攻撃のアメリカの危険性

第一章　保守本流とネオコン

b）　ベーカーとはどんな人物

ア）　財務長官として**プラザ合意**

イ）　石油の利権確保の現場として実績豊富

↓

ウ）　イラク攻撃の危険性を誰よりも熟知

第一章　保守本流とネオコン

d）　大統領の取り巻き・**ネオコン七人組**

ア）　国防副長官ポール・ウォルフォイッツ
イ）　副大統領首席補佐官ルイス・ビリー
ウ）　国防政策会議長リチャード・パール
エ）　国防次官ダグラス・ファイス
オ）　報道官アリ・フライシャー
カ）　スピーチライターデイヴィッド・フラム
キ）　保守派論客ビル・クリストル

第一章　保守本流とネオコン

e）　1

ア）クリストルが編集長の雑誌を発信源

イ）2002年1月29日ブッシュ一般教書演説

ウ）イラン・イラク・北朝鮮を「**悪の枢軸**」

f）2

ア）**イラク先制必要論**の積極的発信

イ）**中東国家の「民主化」口実**に主張

ウ）世界中からの異論も、米は正当化

エ）ブッシュはもはやキリスト原理主義者でない

2002年
このような国家とテロリスト同盟国が
悪の枢軸を構成し
BBC NEWS JAPAN

第一章　保守本流とネオコン

２　現代の好戦的シオニズム

a）　アリエル・シャロン（第15代イスラエル首相）

ア）2002年パレスチナ難民虐殺を指示

イ）シオニズムの本来の意：**シオンの丘**に戻りユダヤ人国家建設の悲願

ウ）今やイスラエル建国から中東戦争などアラブ社会への挑戦

第一章　保守本流とネオコン

３　ホワイトハウスの無知

a）中東のあらゆる紛争は米英の油田採掘権の野望の仕業

b）ブッシュに石油利権獲得できる知性は無し

c）　フランス・ドイツ・ロシアはイラク侵攻反対

第一章　保守本流とネオコン

4　中東石油供給の仕組み

a）探索、採掘、輸送、精製、販売まで一連のオイルシンジケート形成

b）サウジアラビア・エジプト・ヨルダン・レバノンなどの堅い連携

↓

c）ブッシュの野望の余地は無し

第一章　保守本流とネオコン

５　米石油業界の本音と真実

ａ）親善外交が最善の利益確保

ア）サウジなど親米国も消費国無くして経済は不成立

イ）それでも米英のいいなりにはならない

第一章　保守本流とネオコン

b）ゼネラルモーターズ・フォード・ダイムラークライスラーは燃料電池車への転換

ア）ガソリン市場の縮小は宿命

イ）これからの主体：**天然ガス**

ウ）**ロシア・イラン・カタール**などカスピ海諸国

エ）今までの依存先の**カナダ**は供給力不足に直面

第二章　アメリカの鉄道資本

1　アメリカのエネルギー事情

a）アメリカは世界的にも大規模なIT社会

b）インターネット通信・コンピュータ産業の動力源は電気

第二章　アメリカの鉄道資本

２　アメリカ人の浪費

ａ）　2001年1月　カリフォルニア大停電

ｂ）　4月・同州電力会社パシフィック・ガス＆エレクトリック倒産

ｃ）　カリフォルニアは全米最初の**電力自由化**

ア）しかし電力危機の本質は**おびただしい電力消費**

ｄ）　カリフォルニアだけで日本や英独仏加の平均の二倍

ｅ）　カナダの発電量の1/3を輸入

第二章　アメリカの鉄道資本

３　米の石炭事情

ａ）米IT社会の基盤は石炭

ｂ）米の石炭生産量は中国と同程度

ｃ）埋蔵量は中国の二倍

第二章　アメリカの鉄道資本

4　石炭と権力

a）全米の石炭採掘量トップ:ワイオミング州

b）面積は日本の2/3ほどで人口500,000人

c）同州出身の要人:**リチャード・チェニー**

ア）父ブッシュ政権で湾岸戦争指揮

イ）息子ブッシュ政権で副大統領

第二章　アメリカの鉄道資本

４　石炭と権力

d）ワイオミングは大統領選挙人が3人と最小

e）33,000,000人のCAが54人

f）人口当たり四倍の有利な配当

g）盤石な支持基盤

第二章　アメリカの鉄道資本

5　石炭と鉄道

a）米大手貨物列車会社

ア）バーリントン・ノーザン・サンタフェ鉄道

イ）ユニオン・パシフィック鉄道

ウ）CSXコーポレーション

第二章　アメリカの鉄道資本

5　石炭と鉄道

b）UP鉄道支配者のハリマン家の投資銀行ブラウン・ブラザーズ・ハリマン

c）その最高幹部のプレスコト・ブッシュはのちに上院議員

d）その息子がジョージ・H・W・ブッシュ

e）そしてその子がジョージ・W・ブッシュ

第二章　アメリカの鉄道資本

6　2001年大統領選

a）石炭生産量上位十州

ア）West Virginia

イ）Kentucky

ウ）Pennsylvania

エ）Texas

オ）Montana

第二章　アメリカの鉄道資本

カ）Illinois
キ）Virginia
ク）North Dakota
ケ）Colorado
コ）Indiana

b）　そのうち民主党ゴア候補の勝利はペンシルベニアとイリノイのみ

c）　→石炭と共和党支持基盤は密接に関係

第三章　保守派のマーチャント・バンカー

1　メリルリンチとウィッター

a）メリルリンチ成功の経緯

ア）創業者メリルがPennsylvania鉄道の副社長の娘と結婚

イ）食品チェーン・セーフウェイ設立から頭角

ウ）ペンシルベニア鉄道とユニオン・パシフィック鉄道の資本獲得

エ）ブッシュ一家の背後へ

第三章　保守派のマーチャント・バンカー

２　証券会社ブライス・ウィッター

a）Citi銀行頭取チャールズ・ミッチェルをトップ

ア）ミッチェルはシカゴ石炭業者の娘婿

イ）娘を航空王レントシュラーの甥と結婚

ウ）レントシュラーはボーイング・ユナイテッド・プラット＆ホイットニーを創業

第三章　保守派のマーチャント・バンカー

２　証券会社ブライス・ウィッター

b）ウィッター集団・戦闘機産業・ホワイトハウス全予算・二つの投資銀行・ロスチャイルド財閥の繋がり

c）ブライス・ウィッターは911で最大の被害

↓

d）イラク侵攻は復讐か？

第三章　保守派のマーチャント・バンカー

３　アメリカ経済の腐敗

a）2002年日本に対しほぼ700億ドルの貿易赤字

b）中国の輸出量が急上昇

c）ロスチャイルド系の老舗投資銀行を国際金融機関が次々に買収

d）2002年、次々にウォール街金融犯罪が発覚

第四章　シンクタンクがばらまく軍事思想

1　シンクタンクの実態

a）イスラムへの憎悪・イラク攻撃支持を扇動

b）オーストラリアのメディア王ルパート・マードック

ア）オックスフォード大学→大衆紙サンで頭角→76年ニューヨークポスト買収→英タイムズ買収→20世紀FOX買収

イ）マードックはユダヤ人、親友にイスラエル首相シャロン

ウ）資金面の後ろ盾はロスチャイルド絡み

第四章　シンクタンクがばらまく軍事思想

2　シンクタンクによるアジア友好破壊工作

a）北朝鮮を「悪の枢軸」呼ばわりのブッシュ取り巻きの日朝関係妨害

ア）02年10月15日拉致被害者帰国→**日朝国交正常化**の第一歩

イ）しかし翌日、米は「北朝鮮は核を保有」

ウ）拉致被害者と北に残留の家族との再会叶わず

第四章　シンクタンクがばらまく軍事思想

3　軍事シンクタンクの構造

a）19世紀の鉄道拡大と鉄鋼産業

ア）鉄鋼会社カーネギー・スチール

イ）労働者の低賃金雇用で莫大な富

ウ）富の半分を慈善事業に還元→**カモフラージュ**（カーネギーホール等）

第四章　シンクタンクがばらまく軍事思想

b）ホワイトハウスの取り巻きによる世論工作

ア）イラン・イラク・北朝鮮を「**悪の枢軸**」呼ばわり

イ）米の正義思想で益どころか世界はむしろ不利益

ウ）米の暴走阻止の唯一の手段：

→世界中の経済界による米経済を崩壊に誘導

まとめ

1　ホワイトハウスの背後：ネオコンの実態理解が必要
2　イラク侵攻の米の欺瞞への盲目は危険
3　米の権力構造の実態解明と暴走阻止が最重要